

揮発性核種の扱いについて

No.	Page	質問・コメント等
28	本文図表 -18 (核 種選択)	
38	添付書類 P3-3 (核種選 択)	
76	本文 P5 (核種選 択)	→C-14/Co-60 では、評価する意味がよくわからない。主蒸気へのCo-60、I-131等のキャリーオーバー率は、起動試験で、データ取得しているはずなので、それらと整合しているか。

1. の算出方法及び算出結果

今回の認可申請書の核種選択における核種組成比の設定において、前回の認可申請書同様に、放射化学分析値 ($^{137}\text{Cs}/^{60}\text{Co}$ 及び $^{14}\text{C}/^{60}\text{Co}$) は算術平均値の95%上限値を用いて設定した。

一方、回答書 No.12 (審査会合資料における回答 No.10) のとおり、今回の認可申請書の核種選択における核種組成比の設定について、旧規則の要求である重要10核種の選択については無くなったが、審査基準の要求である幅広く選択することを考慮し、再検討した結果、放射化学分析値 ($^{137}\text{Cs}/^{60}\text{Co}$ 及び $^{14}\text{C}/^{60}\text{Co}$) として、算術平均値の95%上限値を用いると、 ^{137}Cs 及び ^{14}C のみを高めに評価することになるため、幅広く選択することを考慮し、算術平均値を用いることとした。

2. の説明

<参考>

以上